

公民館月報

K O M I N K A N G E P P O



特集 「お父さん!あなたの出番です!」

- 4.5
- 2 トピックス 臨時理事会・臨時評議員会開催
- 3 視点 私の選んだ福寿大学
- 3 ひろば 手抜きのおぼろ
- 6 実践記録シリーズ 自立と社会性の育成をめざしての少年教室
- 7 サークル交流 いつまでも若くワン・ツー・スリー (五泉市) / 暮らしの中に潤いを求めて (田上町)
- 7 素顔拝見 知野 栄さん (加茂市) / 板場 麻実さん (津南町)



「椿寿荘」

田上町指定文化財 越後蒲原豪農田巻邸

表紙解説

田上の豪農として名を成した原田巻家。その広大な離れ座敷が「椿寿荘」です。
 枯山水の庭園は、春夏秋冬いつの日も華麗な趣を見せています。
 座敷では、落語、音楽コンサートが開催されるなど文化活動も盛んです。

臨時理事会・臨時評議員会開催

◆第58回県大会決議文案承認 大会旗の引継ぎ村上市から上越市へ

7・16中越沖地震災害で開催中止となった第58回新潟県公民館大会、予定されていた大会決議文案の提案・承認や、次期開催地への大会旗の引継ぎも未実施であり、また中越沖地震災害に伴う災害見舞金



大会旗の引継ぎ

等の案件があったため、九月二十六日(水)、臨時理事会及び臨時評議員会が新潟市生涯学習センターで開催された。

◆審議事項

一、第58回新潟県公民館大会の大会決議文案については、明がなされた。
議長には、中公連小千谷市公民館長金箱貞夫氏を選任、議事に入った。

◆報告事項

一、第58回新潟県公民館大会の開催可否及び中止後の対応経緯について
開催可否の段階から緊急対応も含めて、県公連事務局より詳細な報告がなされた。
二、同県大会経費の精算見込書について
中間報告という形で、8月31日の段階での詳細な説



メッセージの代読

掲載済みではあるが、小野実行委員長から提案され、満場一致で承認された。
二、次期開催地・期日・会場について

・次期開催地は上越市で、平成20年7月18日(金)、「リージョンプラザ上越」で行うことを、上越市立公民館星野館長(代理細谷副館長)から提案され、これも承認された。

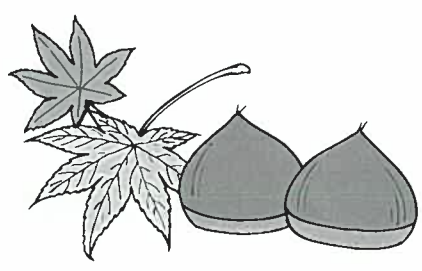
◎大会旗の引継ぎ

・村上市中央公民館小野館長から上越市立公民館星野館長(代理細谷副館長)に大会旗が手渡された。
・次期開催地の上越市立公民館星野館長の、特例市となつた上越市で、親鸞聖人上陸800年、NHK大河ドラマの放映など、「ふるさとアピール年間」と位置づけ、心よりお待ちしている旨のメッセージが代読された。

三、第58回新潟県公民館大会の紙上大会(変更)に伴う公民館関係職員等研修会の開催について
県補助金執行の関わりで

- ①村上市岩船郡
 - ②三市北蒲原郡
 - ③上越地区三市の
- 三ブロックで開催の可否を検討し、10月中旬頃までに県公連に回答することとなった。
四、中越沖地震災害に伴う災害見舞金について
・遅ればせながら、激甚災害指定を受けた四市町村(柏崎市、刈羽村、出雲崎町、長岡市)に一万円ずつ贈ることを決定した。

審議終了後、それぞれの四市町村公民館長に土田副会長から見舞金が手渡された。



視点

「私の選んだ福寿大学」

新潟市亀田福寿大学・相談役 服部 好一



私は勤務地神戸で水先人を
 辞し、昭和61年初頭に旧亀田
 町に住まいを持ちましたが、
 友人、知人のない町で生活を
 していくために、人との出会
 いによる交流を求めていた私
 の目についたのは亀田福寿大
 学でした。

この大学は、亀田地区公民
 館の協力を得て「ゆりかごか
 ら墓場まで」の生涯教育を柱
 として、60歳以上の亀田地区
 の住民であれば誰でも入学が
 できる卒業のない大学でし
 た。

現在の授業内容は、詩吟・
 川柳・健康ヨガ・歌謡・探訪・

ゲートボールの6学部で、授
 業は各学部とも月2回行わ
 れ、一人で複数の学部を受講
 できるよう日程がなされてお
 り、定期授業のほか特老「向
 陽の里」の雑草刈り、歌と踊
 りの奉仕、一泊二日及び日帰
 り研修旅行、学園祭等を実施
 しております。

年々高齢化の進む現代社会
 に於いて、豊富な人生経験や
 知識・技能を活かし、社会貢
 献し、次世代を担う若い人達
 との交流の輪を広げること
 より、その育成に資すること
 ができればと思っております。

HOT NEWS 掲示板

平成19年度 下越地区公民館 関係役職員等研修会開催

テーマ
合併で見えてくる公民館の新しいあり方

豊かな自然と文化・伝統のまち「阿賀町」を会場
 に、下越地区管内から90名余の参加を得て、盛会
 裡に開催された。

◇期 日 平成19年9月28日(金)
 ◇会 場 阿賀町公民館
 ◇参加者 公民館役職員、公民館運営審議会委員、社会教育・生涯学習関係者等 93名

◇日 程

9:30	10:00	10:30	12:15	13:15	15:15	15:45	17:00	19:00
受付開会	講演会	昼食	分科会	閉会	移動	情報交換会		
阿賀町公民館						小会場		

◇記念講演会
 演題 「青色青光 黄色黄光
 赤色赤光 白色白光のために」
 講師 新潟市教育委員会教育政策監
 手島 勇平 様

◇分科会
 講演会終了後、12~18人の5グループに分かれ分科会を行った。
 今回は主テーマに沿った形で座談会形式の分科会を実施。
 司会者(座長)を中心に「合併に伴う公民館の新しいあり方、市町村の課題、取り組み」について話し合いを行った。

手抜き怖さ

私たちは、食材や加工食品等の農薬や有害物質が問題になると極端に反応し求めることを控えるが、時間の経過とともに関心度が薄れていくように思う。忘れてならないことに、私たちが常に口している食品にも、数多くの添加物が使用されている。

以前に読んだ安部司氏の本によれば、添加物により見た目、味、保存性、食感まで自由自在のこと。私たちに豊かな食生活を可能にしてくれているのは食品添加物によるところが大きい。食品添加物ほど私たちの生活向上に尽しているものも少なくないとも言っている。

また、添加物抜きに「安

私達は、食材や加工食品等の農薬や有害物質が問題になると極端に反応し求めることを控えるが、時間の経過とともに関心度が薄れていくように思う。忘れてならないことに、私たちが常に口している食品にも、数多くの添加物が使用されている。

以前に読んだ安部司氏の本によれば、添加物により見た目、味、保存性、食感まで自由自在のこと。私たちに豊かな食生活を可能にしてくれているのは食品添加物によるところが大きい。食品添加物ほど私たちの生活向上に尽しているものも少なくないとも言っている。

また、添加物抜きに「安

手抜き怖さ

胎内市公民館運営審議会委員 石山 節子

くても、おいしくて、いつまでも腐らない食品”なんてできっこないとも書いてある。本来料理は材料を求める。本来料理は材料を求める。調理することが一番大切な家族のため、ことに子どもには心の栄養でもある。子どもを育てる大事な部分である食の手抜きの怖さを考えたいものである。

今の青少年の問題も、食に一因があると言われて久しい。食品に添加物の皆無はあり得ないと思うが、少しでも添加物の少ない食材を、と心したいものである。



の出番です!

の立場がわかって、うなずいて行動ができるようになったのです。

その「はじめの一步」とは、どんな行動か!という



と簡単なことでした。「子どもと、いっしょに真剣に遊ぶ」ことでした。この結論に達したわれわれは、子どもといっしょに「料理」をつくり、「竹トンボ、うちわ、竹箸や食器を作り」、「流しソーメン」を食べ、「ドラムを叩き」、「アルビレックス新潟のサッカー観戦」に出かけ、「里山を歩き」、朝4時から「地引網」をした。もちろん家族そろっての行動です。このように頑張ってくれた「お父さん」方は、講義・講座の後の、講師を招いての「チョット一杯!」で、何ともいえない幸福感を味わうのです。

保育園長として一言。保育園児の生活リズムの標準時は午後6時の「夕食」からです。7時には夕食を終えて入浴です。8時にはベッドへ。すると、翌朝自分で、午前6時頃起きてきます。悠々と8時前には登園。園では、年齢にあわせて昼寝をさせます。長い昼寝は、夜のリズムを狂わせませんからしません。この生活リズムを必ず続けてください。お父さんが遅く帰ってきて、スキンシップとかいって、子どもを起こし、いっしょに風呂に入るとか遊ぶとかしたがりませんが、ダメです。小学校3年生までは、決まった場所で宿題をやってください。親がそばについて本なりを読んでいてください。子どもは安心して宿題に集中できます。勉強の仕方、予習復習の仕方を見てやってください。この方法がうまくいったら、4年生からは、一人で自分でできるようになります。

青少年について一言。人生は長いです。学校が全てではありません。不登校・ニートになっても責めないでください。あなたが「育てたように子は育った」だけのことです。昔は、他の子どもと比較することなく「大器晩成(大物は、後に育つ)」と悠々としていたもんです。もう一言。今の子はみな携帯電話を持っています。誰が友人なのか異性友達なのか、誰と何を話し、何をメールしているのか、どんなサイトをみているのか。その善し悪しを選択するのは、子どもです。残念でも、われわれではありません。前述の携帯電話でもい

いですから、本音を話せる親子になってください。

しっかりと選択肢できる子を育てるために、われわれ親が育たなければなりません。酒飲んで、パチンコをし、テレビを見るだけの親父になるのか、輝きを持った親父になるのか。限りある命を生きるのか。命ある限り生きるのか。雲泥の差があります。親の生き様を見て育つこどもの反応態度で、親はどうあるべきかがわかります。

先日、TVで「父親学級」の生徒が紹介されました。

父親学級に参加してから夫婦の会話が増え、子どもと行動することが増えたと語ってました。愛と慈しみの家庭は、親父のチョットした心の持ちようで生まれます。

最後に、この坂井輪「父親学級」が、大切な地域活動として軌道に乗ることができたのは、当時の担当者だった故鈴木誠一氏のお蔭でした。

「われわれの親達もいい歳だから“葬式事情”も学ばなければなあー」と企画した矢先に逝ってしまいました。あの笑顔とデカイ図体が今も脳裏に去来します。

南無重々感謝。

新潟市坂井輪地区公民館主催 平成18年度父親学級

母親まかせじゃもったいない

～子育てを楽しむ極意～



父親同士で、子どもとのより良い関係作りについて語りあきましょう!

子育てで人生を豊かに! 親子参加の回もあります!

日 月 日	時 間	対 象	内 容	講 師
1	7/6 (木) 午後 7時～	興味のある方 公開講座	子どもたちを取り巻く問題 ～新潟市の少年非行～	スーパーサポートチーム チーフアドバイザー 石川志郎さん
2	7/14 (金) 午後 7時～	父親のみ	前回の講座について 話し合い	石川志郎さん
3	9/9 (金) 午後 7時～	父親のみ	母親まかせじゃもったいない ～子育てを楽しむ極意～	新潟大学教育人間科学部 助教授 藤田邦彦さん
4	9/23 (祝) 時間 調整中 予定	親子	親子で里山歩きを楽しむ	
5	10/8 (日) 午後 1時半～ 5時 予定	親子	みんなでドラムに挑戦	ヤマハミュージック倶楽部 講師 沢野正行さん
6	11/2 (木) 午後 7時～	父親のみ	子どもたちを取り巻く問題 ～思春期中心体の電話相談から～	新潟青陵大学 助教授 池田かよ子さん
7	11/17 (金) 午後 7時～	父親のみ	講座を振り返って話し合い	企画中

◎ 対 象 父親30人(先着順)

※ 公開講座は興味のある方どなたでも

◎ 会 場 坂井輪地区公民館

◎ 参加費 無料(ただし、実習は実費負担)

※ 2回自終了後、情報交換会を予定します。

お申込みは

坂井輪地区公民館

(電話 269-2043)へどうぞ

企画委員による番外編 ※公民館主催事業ではありません。詳細については、講座のなかでお知らせします。

プラン1
7月30日(日)
午前4時30分～
親子で遊ぼう「地引網」



プラン2
10月28日(土)
時間未定
親子でサッカー観戦



プラン3
12月2日(土)予定
午後6時～
帰郷で忘年会



特集

「お父さん! あなた

新潟市坂井輪地区公民館
父親学級企画委員
(新潟市新通保育園長)

細川 好円



『父もう この世にいないと 知ってても
つながる気がする 携帯電話』 (青田美穂)

青田さんは、高校2年生のときにこの一首を詠んだ。何かあると、生前の父と携帯電話でよく話したことがあったのだろう。この一首を何度も読んでいるとそれがわかる。携帯電話は相手の姿が見えないから、また、こちらの姿も見えないから、自由でリラックスした気持ちで話すことができる。本音を語るができる。この父と娘が携帯電話という手段はどうであれ、本音で話し合っていたことは望ましいことだ。今は、この世にいない父だが、会って以前のように話したいと願う娘の切なさが響く。

以前、選択肢に迷っていた娘から、「人生の先輩として聞くが、お父さんはどう思うか?」とメールがきたことがあった。娘(子ども)は、父を親と見ていることもあれば、異性としての男性と見ていることもあれば、人生の先輩として見ていることもあることがわかって、ハッとしたことがあった。前述の話から、父親のいる家庭での父親の存在は大きいし影響力は大である。

『父さんは、毎日「かいしゃ」から帰ってくるのが遅い。父さんは家で、「うん」「うん」としかいわない。そういえば、このごろお父さんとお母さんが話しているのを聞いたことがない。

ぼくが父さんに話しかけてもいつも無視される。なんでやる…。ぼくのこともお母さんのことも嫌いなんやろか。父さん、休みの日はジャージで昼間から缶ビール飲んでテレビで野球見てるだけ…。ぼくがはしゃぐと「うるさい」って怒鳴られる。いつもイライラしている。近づくと怖い感じがするときがある。このあいだ父さんひとりで怒って、テレビのチャンネルを壁に投げつけて壊した。なんか、さみしくなったなあ。ぼく、なんか悪いことしたのかな。父さん「かいしゃ」つらいんやろか。「かいしゃ」って何やる?ぼくの知らない世界や。父さん、誰かにいじめられて



いるんやろか?母さん、父さんとケンカしてさみしそうやったなあ。なんでやる…。

最近、ぼくもモヤモヤ、イライラして、何をしてもおもしろくない。ぼくなんか変や。』

15歳の“ぼく”が書いた作文です。家族の光景が浮かんでくる。「かいしゃ」に情熱が注げない父親。しかし、家族を養わなければならないという生活の糧としての「かいしゃ」。父親の言い分があるのだろうけど、子どもにとっては淋しい話だ。会話もなく、輝きを失った夫に、妻は小言をいえば喧嘩になる。出逢った頃の夫はどこへ行ってしまったのか!あの頃の父さんはどこへ行ってしまったのか!一つ屋根の下に生活しながら、みんなバラバラ。お互いがお互いに無関心。存在関係がバラバラの人間たちは、温かさを求めて外へ出て行く。事件が起きてから、“お前は、私の大切な子だ”と試みてみても、嘘っぱちだってことを子どもはすでに見抜いている。“そういえば、最近子どもと話していない。何を子どもと話しているのかもわからない。話す話題がない。話す口実がない”。事件とわが家を比べてみると、事件にならないのが不思議なくらいだ。わが家でも爆弾を抱えている。内心、悲壮感と危機感を持ったオヤジ達が集まって、“一体どうなっているんだ俺達の親子関係は!”と始まったのが、坂井輪地区公民館の「父親学級」だった。

毎年7、8月頃から始まって4ヵ月間に7回開催。まずは、「今の自分を知る」ことから始まった。

「こんな父親がいい」、「父への思い」を語ってから、学校長から「学校が父親に求めているもの」を聞き、「中学校が小学校に望むこと」を具体的に聞き出し、親や大人からの影響が大である話を聞いてから、「夫婦のやくわりについて」考え、また、どんなところで「夫の暴力、夫婦げんか」が起きるのか、それを見聞きしている子どもたちは、それらに反発して外へ出て行ってどんなことをしているのか、また、どんなことに巻き込まれているのかを、専門家から「子ども達を取り巻く問題—新潟市の少年非行—」、「思春期—心と身体」の電話相談から—現場の声を聞き、宗教家から「自己を見つめ直す」を聞き、「夫婦の会話」がうまくなされているのか?を問い、「しつけと虐待」の違いを考え、改めて「子育てについて考え」、また「父親の子育ての楽しみ」も学んで、ようやく、今の自分達が置かれている立場、子ども達が置かれている立場、妻が置かれている立場がわかってきました。父親が何をしなければならないかが、薄っすらとわかってきたのです。それぞれ

実践記録 115 シリーズ



自立と社会性の育成をめざしての少年教室 ～親とはなれて、親とともに～

長岡市和島公民館 館長 羽鳥 仁一

1. 平成の大合併と当地域 (省略)
2. 当地域の概要 (省略)
3. 和島公民館の概要 (省略)
 - (1) 施設 (省略)
 - (2) 分室の職員構成と業務 (省略)
4. 少年教室の活動
 - (1) 沿革

昭和61年度に発足した。発端は各種スポーツ教室等における子ども達の言動の変容だった。名前を呼んでも返事はない。自己中心的な行動が目立ち、挨拶もできない。注意してもなぜ注意されたかがなかなか理解できない。これらの声が届き出した当初は例外的な事例と思っていたが、ほどなく共通した問題として捉えるべきだと気付かされた。

子どもと何をどのようにしたらいいのか？スポーツ教室は教室なりの取組みをするのだから、それと異なった方向性の育成事業にすべきだろう。

親と離れた所で活動し、多様な活動内容を用意する。仲間をつくり、協同しての体験活動をさせる。同じ土俵の中で自分の力を発揮させる。汗をかかせる。泣きべそをかいてもいい。でも続けさせよう。様々な思いを抱きながらの船出であった。

以後、会場等の都合もあり、また、前年度の活動や年々の出来事等をふまえながら、学習内容や方法はかわるものの、一貫して宿泊研修を欠くことなしに実施してきた。そして、常に五感を使っただけの体験活動を基調としながらも、体験を経験に昇華するよう心掛けてきた。単に体験したということでは終わらせたくなかった。何故ならば、社会性は経験知的な積み重ねから育成されるからである。

(2) 活動内容

活動の内容は、生活体験、運動体験、集団体験、奉仕体験、自然体験、勤労体験、創作体験等の諸体験を組み込むようにつとめている。間接的な体験の効用を否定するものではないが、昨今の子どもは明らかに直接体験が不足していると思うからである。また、担当者は数年毎にかわるので、それぞれの独自性を発揮してもらいながら、教室自体の経験知をも年々大きくするように工夫してもらっている。

5. 海洋教室の活動

(1) 沿革

昭和58年の「海洋センター」竣工とともにない、「B & G 海洋クラブ」が誕生した。設立当初のクラブでの活動内容はカヌーやボートによる競技性の高いものだった。対象者は小中学生だった。担当者(指導者)の方針もあったのであろうが、やがて中学生の参加が途絶えるようになった。

小学生中心の活動になってからは競技性より、自然と親しむことにウエートを置くようになった。活動内容もカヌーやOPヨットをベースにしながらも、水泳はもとより、登山、釣り、スキー等と多彩にした。少年教室と違い、親の積極的参加を促した。教室の名称も「海洋教室」と変更した。

(2) 活動内容

この教室の基本方針は施設の全面移譲を受けたとはいえ、「B & G 財団」の寄付行為と無縁であってはならない。そこでは青少年を対象に、海洋性レクリエーション事業を基軸とした実践的体験活動を通じて、豊かな人格形成に寄与することを目的としている。だが、最近の「B & G 財団」の活動内容は老人の転倒防止プログラムや野山で自然と親しみ楽しむこと等を大幅に取り込んでいる。結果論ではあるが、カヌーやボートを中心に競技力の向上をめざしていた活動内容を容容させたことは、方向性として良き切り換えだったといえる。

(1) に記した活動以外にも、それぞれ担当者が工夫を凝らし、マッチと蝋燭以外の熱源に頼らない1泊3食の生活体験、星空を眺めて一夜をあかしたり、様々なマリンスポーツを楽しむことや地域内の湧水を飲み水マップに表示すること等も行ってきた。

別掲の学習内容例をご覧ください。

6. 成果と課題

(1) 少年教室

少年教室では子どもがリーダーを中心にグループで活動することが多い。最初に全般的な説明や諸注意をした後は、準備、学習活動、後始末とリーダーに指示をし、活動させる。うまく事が運ばないこともよくある。このような時、家庭でお手伝いをしていの子とそうでない子の違いが現れたりする。グループ内で得意不得意の分野をお互いに認めあうようになる。実質的なリーダーが明確になると、役割分担もうまくゆき、円滑な活動が出来るようになる。親の視線や声の届かないところで、人との関わりやそれぞれの役割を体験的に理解しあうことで、より社会性を高めることができるのではなかろうか。

地域の子どもの生活体験や自然体験は想像以上に希薄だった。純農村地域で豊かな自然に恵まれている。祖父母と同居している家族構成が多い。一見するに、直接体験を日常的に行っているような環境といえる。だが、このような地域性とは無関係だと思っほうが現実的なのである。

人格形成には間接経験や座学だけではその効果は思う程には上がらない。そのためにはlearning by doingと教育学者デューイもいうように、体験を通して行う様々な学習が必要不可欠なことと思う。

成果はあまり性急に求めてはならない。思わぬ時に思わぬ形で現われる。時にはこちらで予期せぬ成果となって現われるのである。また、想像しなかった事態が生じ対応に窮したり、不測の事故が発生することもある。引率者に対しての試練をも包括するのが体験学習だといえる。

少年教室の参加者は3年生から6年生である。3年生と6年生では心身の成長に大きな開きがある。学年の幅がありすぎるかななどの思いは発足当時からあったであろう。現在も同様な思いはある。だが、少子化が進む時代の背景を考えると、ある程度の人数があってこそ教室が意義をもつのであるから、対象者は現状のままにせざるをえない。

現在当地域には二つの小学校があり、両校の児童が教室に参加している。2年後には統合小学校が完成する予定である。少年教室では両校の児童が一緒になることで、日常的な状況を断ち、緊張感をもってスタートをきれたが、今後は様相が違ってくることを想定し、相応な手立てを講じなければならないであろう。

(2) 海洋教室

海洋教室では親の積極的参加を求めている。危険がともなう活動が多いこともその理由だが、親子とも同じスタートラインに立つことが多い活動がほとんどだからである。教室での親世代は生まれた時からテレビを見てきた。また、月刊漫画雑誌ではなく、漫画週刊誌に親しんできたマンガ世代である。直接体験より間接体験が多くなってきた世代である。直接体験の不足を補ってくれるのが間接体験である。この二つの体験が相俟って人は成長するのであるが、人格形成としての基本的スタンスは直接体験にある。

教室ではできるだけ親も子も同じ活動をしてもらうのだが、親の方が夢中になり、それを見て子が白けることさえある。擬似体験としての間接体験を直接体験に切り換えているのである。

新しいことに挑戦する。失敗したとき、次なる挑戦を避ける親が子どもにしきりと挑戦を奨励する。泣きべそをかきながら挑戦した子の笑顔に対して、褒めたことを誇る。

海洋教室での学習内容は単独での体験活動を中心としている。自分の身体を駆使し、自分で工夫しなければどうにもならない世界での活動である。周囲のスタッフも見かねてアドバイスはするが、よほどのことがない限り自力で達成させるようにしている。懲りしてしまうのと成成感は紙一重である。

果敢に新しいことに挑む子どもをみてみると、性格の相違もあるが、直接体験の累積度の差が大きいように思う。気弱な子でも、一つ成功すると着実に次ぎのステップに進むことが多いからである。自分の力で一つのことを成し遂げることは、子どもにとって大きな勲章であり、大きな自信に繋がってゆく。大切なのは出来たことを認めてやり、大変だったことを共感してやることである。参加することは直接体験での学びをもとめているのである。子どもが差し伸べてくれた手を少しずつでも引っ張り上げてやり、自立心を高めるよう図ってゆかねばならない。

この教室の学習内容は専門の育成士と多くのスタッフを必要とする。人の確保が最大の課題といえる。

向教室とも、教室でかつて学習し、今は学生や社会人となった人たちが応援にかけつけてくれる。嬉しく、有りがたい話である。

平成17年度 海洋教室学習内容 主催：和島村公民館

回	月	日	曜日	学習内容	学習方法	時間	会場	備考
1	4	17	日	カヌー (雨天：OPヨットの進むわけ・ロープワーク)	実習	9:00～11:00	ワタチの堤 (雨天：小体育館)	
2	5	21	土	カヌー・竹の子堀 (雨天：OPヨットの進むわけ・ロープワーク等)	実習	13:30～15:30	ワタチの堤・坂谷、住雲園 (雨天：ゆきわり荘)	
3	6	11	土	カヌー (雨天：カヌー川下のビテオ鑑賞・ロープワーク等)	実習	9:00～11:00	ワタチの堤 (雨天：ゆきわり荘)	
4	6	25	土	カヌー(転覆後のリカバリー方法)	実習	9:00～11:00	B & G 海洋センタープール	
5	8	5	金	カヌー、ドラゴンボート、モーターボート遊覧等	実習	8:10～17:00	阿賀町三川B & G 海洋センター艇庫	
6	9	23	金	カヌー	実習	9:00～11:00	ワタチの堤	
7	10	16	日	南魚沼市八海山麓 (サイクリング・ハイキング)	自然体験	8:00～16:00	南魚沼市(水無溪谷等)	
8	11	12	土	海釣り	実習	6:30～11:30	寺泊港	
9	1	22	土	スキー・スノーボードツアー	実習	～	キュービットパレー	
10	3	19	土	ロープワークとヨットの乗り方	実習	9:00～11:00	ゆきわり荘	



いつまでも若く
ワン・ツー・スリー

はつらつ健康クラブ

生涯学習の一環として、はつらつ健康クラブがあり、六十歳以上の方なら誰でも入ができ、只今三十五名の会員です。

和泉澤先生のはつらつとした声とリードで、リズムに合わせてストレッチ体操をし、心と体を動かし、運動の苦手な人も楽しく、笑いがあり、二時間あっという間に過ぎてゆきます。

前かがみになりやすい日常生活の中で、若さを維持し、生活習慣病を予防するため、みんな心地よい汗をかいています。

毎年十一月さくら学園の発表会があり、今、その練習で、はりきっています。

五泉市
はつらつ健康クラブ
笠原 孝子 記



暮らしの中に
潤いを求めて

公民館書道教室

田上町公民館書道教室の歴史は古く、誰に聞いても、40年か、50年かとはっきりしません。私が引き継いで11年になりました。

現在23名程でA Bグループ



に別れて、月2回自主運営で月曜日に勉強しています。

80歳のベテランから子育て中の世代迄、いろいろな分野で活躍している人も多くて話題が豊富なので、交流の際などは、和気藹々と時間が経つのも忘れる程です。

10月の町の文化祭に向けて全員で頑張っています。

最近、悲惨な事件や事故のニュースで心を痛める毎日ですが、筆を持つことで、暮らしの中に潤いや安らぎを得られるように、今迄どおり仲よくやって行きたいと思えます。

田上町公民館書道教室

講師 小柳 良子 記

さあやってきました!今月号は津南町公民館の?いやいや津南町の元気印☆板場麻実☆をみなさんに紹介いたします。

高齢者学級から成人式と幅広い年代を対象に活躍している麻実さん。いつも笑顔で小学生からは、「まみお婆!」お年寄りからは、「板場さんはいたかねえ?」流暢な英語も使用するので、外人さんからは、「Hello! Mami.」と呼ばれ公民館の人気No.1アイドルです。結婚して数十年になりますが、いまだに「あべさん」

津南町教育委員会生涯学習班

主任 板場 麻実さん



(旧姓)なんて呼ばれることもしばしば。。

生涯学習の経験がとても豊富で、困ったときはいつでも相談にのってくれます。というか、私が勝手に相談を始めます。すると、いつもの確なアドバイスしてくれます。決して答えを言わないところがなんとも言えません。

みなさんも生涯学習に関することで困ったり、聞いてほしいことがあるときにはぜひ「津南町の生涯学習の母“板場麻実”」までご連絡ください。お待ちしております。

(津南町教育委員会生涯学習班 主事 北村要人 記)

知野さんが須田分館主事になって22年目、公民館では最古参です。須田分館は館長と知野さんの少数精鋭で、各種スポーツ大会、高齢者の研修旅行、教養講座、講演会、広報紙「信濃川」の編集などさまざまな事業に意欲的に取り組んでいます。

ところで、知野さんには2つの顔があります。公民館主事としての顔、専業農家として桃や梨をつかって

加茂市公民館須田分館

主事 知野 栄さん



いる顔。忙しい農業の合間を縫って公民館主事としての仕事では、果物を作るようにやさしく、丁寧な事業を進めていきます。

また、知野さんは書がたいへん上手で、大会などでの賞状書きはお手のもの、いとも簡単に書き上げます。農業の仕事も忙しいでしょうが、分館主事としてこれからもがんばってください。

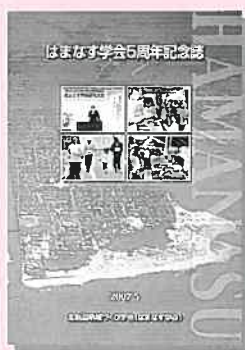
(加茂市公民館 松原茂樹 記)



8月29日に開催された県公
振連総会の折、事例発表の新
潟・はまなす学会理事伊藤弘
子様から恵贈いただいた冊子
です。

とびらのサブタイトルは
「五年の軌跡」となっており
ます。

内容は、◇発刊にあたって
◇第I部学会設立の経緯
◇第II部研究実践報告 1、分
科会報告 ・ひと、まち、
自然 2、はまなす「地域交



通」研究会の活動経過 3、
研究大会報告 4、第29回全
国公民館研究集会第5分科会
「地域連携」より、北新潟地
域づくり学会(はまなす学会)

恵贈資料紹介

はまなす学会5周年記念誌

2007 北新潟地域づくり学会

における地域連携の実際、◇
第III部研究実践活動等の記録
・新潟日報、松浜かわら版
・資料編等から構成されて
おります。

標題、写真、資料等、大変
見易く、分かり易くレイアウト
トされており、すんなり入っ
ていきました。

全国公民館研究集会(仙台
市)でも、その事例発表は好
評のようでした。

Network

ネットワーク

平成19年度 中越地区公民館長・主事・公運審等研修会開催案内

1. 趣旨 (省略)
2. 主題 『新教育基本法施行 今、家庭教育を考える』
3. 主催 中越地区公民館連絡協議会 新潟県公民館連合会
4. 主管 燕市中央公民館 加茂市公民館 田上町公民館 弥彦村公民館
5. 期日 平成19年11月16日(金)
6. 会場 燕市文化会館 燕市水道町1-3-28 TEL 0256(63)7001
7. 日程

	▽12:30	▽13:00	▽13:15	▽14:20	▽14:30	▽16:00	▽16:05
受付	開会式	事例発表	休憩	講演	閉会式		
■受付	12:30~13:00						
■開会式	13:00~13:15						
	開会のあいさつ 中越地区公民館連絡協議会会長 来賓祝辞 中越教育事務所社会教育課長 歓迎のあいさつ 燕市教育委員会教育長						
■事例発表	『ボランティアの参画システム』 田上町公民館 ゆうゆう教室 ・『かるかも お話し隊「加茂昔話の会」』 加茂市公民館 家庭教育かるかも隊						
■休	憩 14:20~14:30						
■講	演 14:30~16:00						
	・演題 『家庭教育の現状と地域教育の課題』 ・講師 新潟経営大学教授 中島 純氏 ・講師プロフィール						
	1962年神奈川県生まれ。東京都立大学大学院博士課程単位取得。 武蔵野短期大学専任講師、新潟中央短期大学助教授を経て、現在、 新潟経営大学教授。専門は教育学、青少年教育論。NPO法人ヒュー マン・エイド22副代表。2007年度より、新潟市男女共同参画審議 会委員、新潟市新津地区公民館運営審議会委員。						
	著書に、『子ども若者の居場所の構想』学陽書房、2001年、『人 間形成と教育—自分づくりへの視座』野嶋書店、2004年など。						
■閉会式	閉会のあいさつ 中越地区公民館連絡協議会副会長						
8. 参加費	無料						
9. 申込み	11月9日(金)までに、別紙の申込書により市町村単 位でお申込みください。※メール、FAX可						
10. 申込み・問合せ	〒959-1372 加茂市大字加茂229-1 加茂市公民館 (担当:小柳) TEL 0256-52-1953 FAX 0256-52-2180 E-mail kominkan@city.kamo.niigata.jp						

event information

第 30回 全国公民館研究集
会兼第48回 関関プロ公民
館研究大会が、10月11日(木)

あ と が き

12日(金) 宇都宮市で開
催され、本県から32名の方
が参加されました。大会の
詳細は、11月号で掲載予定
としております。(鈴木 記)

講師派遣のご案内

～保険に関する?におこたえます!～

加入している
生命保険は本当に
自分に合っているの?

くらしを守る
保障手段はどういった
ものがあつたの?

身近な保険の保障内容は
どういった内容?

…そういった疑問をお持ちの方は多いのではないのでしょうか?

社会保険制度の改革や規制緩和のなかで、医療・年金・介護など、生活保障手段としての公的保険制度や生活保障に対する消費者の関心はこれまでになく高まっています。

(財)生命保険文化センターでは、生命保険制度の健全な発展に資するという公益的な立場から、生命保険に関する正しい知識の普及と、生活保障についての理解に向けた支援活動を行っています。

講師派遣に関する交通費、謝礼などのご負担は不要です!

(財)生命保険文化センター

講師派遣要綱

講演内容 (90~120分程度)	・生命保険 ・医療保険と介護保険 ・年金 ・生活設計と生活保障 ・定年退職準備 <small>詳しくは、中巻をご参照ください。</small>
受講者数	30名以上
講師	生命保険文化センター職員等
謝礼・交通費	不要
資料代	不要。ただし、配付資料として当センター発行電子をご希望の場合に限り、実費をご負担ください(1冊¥100~¥200)。

※休日や夜間の開催も承ります。
※ご不明な点については電話でお問い合わせください。

お申込み方法

3通りのお申込み方法があります。

ホームページ <http://www.jilii.or.jp/>
http://www.jilii.or.jp/ 講師派遣要綱ダウンロード(生命保険文化センター)

お電話 TEL 03-5220-8521

専用の講師派遣申込用紙
生命保険文化センターのFAXもしくは、下記住所の担当窓口にて郵送ください。

お申込み・お問合せ先

〒100-0005 東京都千代田区九の内3-4-1 新田ビル8階
財団法人 生命保険文化センター 学習部担当
TEL 03-5220-8521 FAX 03-5220-9092 ホームページ <http://www.jilii.or.jp/>

お申込みの際には必ず、講師派遣の要綱(送料別)および講師派遣のご案内を添付してください。

(財)生命保険文化センター 190009